



二の間東側襖絵「桑林禱雨」の図

東西に三室が並ぶ白書院は、東（右写真奥）から一の間・二の間・三の間となっている。その中央にある二の間の障壁画は、一の間と同様に、中国古代の逸話を集めた『帝鑑図説』を題材として描かれており、格式の高い障壁画である。

二の間東側にあたる襖は、一の間と隔てるもので、ここには「桑林禱雨」の図が描かれている。

これは、中国・殷の湯王の代に、これまでに記録にないほどの長い旱魃がつづいたため、この旱魃の難を振り払おうと、湯王みずから潔斎して桑林の野に行き、雨乞いをしたという故事からとられている。

襖の北側の二枚には、樹下に台を設えて、その前で跪く湯王の姿と、その後を取り囲むように数人の従者が描かれている。

また、二の間南側から西側（三の間との境）にか